



◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通表彰し、關係地方廳に其の傳達方を依頼した。

山形縣（八月十八日）

表彰狀 一等功績章

三ツ組木杯贈與

同

山形縣道路工手 佐具市四郎

同

同 高橋石藏

同

同 丸藤仁作

表彰狀

山形縣東置賜郡吉野村道路愛護會

同

同 縣東田川郡押切村道路愛護會

◎第二回地方行政協議會會長會議 八月十七日內閣總理大臣官邸に於て第二回地方行政協議會會長會議を開催し政府側より東條總理大臣以下各大臣（外務、大東亞、農林三大臣を除く）內閣四長官、農林次官、內務省關係官、地方長官側より大達東京、坂北海

道廳、內田宮城、河原田大阪、前田新潟、吉野愛知、横山廣島、相川愛媛、吉田福岡、各地方長官及び各地方參事官出席、東條總理大臣より左の挨拶ありて食糧増産對策要綱に就き協議した。

東條內閣總理大臣の挨拶要旨

「現在の戦局の推移に鑑み食糧の自給自足は喫緊の要務であり今回決定をみた第二次食糧増産對策の眼目はこゝにある、この對策は國民の活力を結集動員して速かにこれを實行し直ちにその効果を上げることを期してゐる、これが實行に當つては非常な決意をもつて非常な措置に出ることが必要である、就中緊要なのは土地改良事業であつてこれがためには暗渠排水、客土、小用排水等を大規模に行はうとしてゐるのである、これは官民ともに尋常な措置、尋常な覺悟で實行し得ないことは明かであつて農家が自ら挺身これに當つてはじめてその目的を達し得るのである、政府も非常な決意と思ひ切つた措置をとつて指導に當らうとしてゐるのである、本事業に對しては補助金も従來の例を破り特別の措置として相當大幅の増率を行ふ積りである、本對策を急速に實施するためには普通の經營とか採算によることを得ないのであつて例へば粗朶、竹等を用ひ壽命の短いのを知りながらもこれを使用せざるを得ないのである。

固よりこれがために收穫が相當増加することは確實であるがこれを實行する農家の負擔もまた著しく大なるものがある、當局に

おいても常例を破つて、これがために多額の補助費を交付することとしたのである。

この事業の達成は農家を中心として國民の決意と努力とに基礎を置いてゐる補助費を増額したとて濫費となり却つて生産増強を妨げることなきやう十分注意する必要がある、國民全體が時局の重大なることを認識して戦争完遂の一環として食糧の自給自足の確保に努力することが本対策全體の成否を決する鍵である、政府はこの主意で本施策の實行を期するのである。

◎弘津恭輔氏 内務事務官弘津恭輔氏は七月三十一日東京都事務官に轉任せらる、依つて本會幹事を解職。

◎大熊貞邦氏 内務事務官大熊貞邦氏は七月三十一日地方警視(京都府勤務)に轉任せらる、依つて本會幹事を解職。

◎森本潔氏 厚生省事務官森本潔氏は七月三十一日内務事務官(國土局道路課總務課勤務)に轉せらる、依つて本會幹事を委嘱せらる。森本内務事務官の略歴左の如し。

明治四十四年一月十八日兵庫縣水川郡前山村徳尾一六四六番地に呱呱の聲を擧げられ、昭和二年三月兵庫縣立柏原中學校卒業、同七年三月第六高等學校文科卒業、同九年十月大學在學中高等試験行政科合格、同十年三月京都帝國大學法學部卒業、同年四月内務屬に任せられ、同十一年二月文官分限令第十一條第一項四號に依り休職を命ぜられ、同十二年一月復職となる、同年七月地方警

視に任せられ、愛媛縣警察部勤務となる、同十四年五月應召同十五年四月厚生事務官に任せられ職業部勤務となる、同年十二月陸軍中尉に任せらる、同十七年六月國務大臣秘書官兼内閣書記官となり同七月更らに内務事務官を兼ね、同十八年七月三十一日内務事務官に轉せられ國土局總務課兼道路課勤務、勤務を命ぜらる。

◎内務技師樋浦太三氏 内務技師 道路 樋浦太三氏は八月二十三日臺北帝國大學教授に任せらる。

◎前常務理事新居善太郎氏母堂 本會評議員地方局長新居善太郎氏は八月十三日母堂ヒサ子刀自を喪はる。

◎島崎藤村氏 文豪島崎藤村(春樹)氏は八月二十二日神奈川縣大磯町に於て逝去。

◎評議員柴田善三郎氏 評議員柴田善三郎氏は八月二十五日薨去せらる享年六十七歳。

◎近刊圖書雜誌 (寄贈交換)  
◎民族學研究(第一卷七、八號)

◎汎交通(七月號)  
◎小川郷太郎氏(大東亞戰下の交通政策)

◎河川(第二卷八號)  
◎三田學會雜誌(第三七卷六號)

◎新民(第三八編七號)  
◎自警(六、七月合併號)

○道路（第五卷七號）

（奥井復太郎氏）東京郡制と交通體系の問題、大竹良記氏（香港の道路と橋梁）

○都市公論 第二六卷七號

○電氣通信學會雜誌 第二七卷六號

○水道協會雜誌 第一二三號八月號

○セメント統制會誌 第一卷四號

○土木學會誌（第二九卷七號）

（小川博三氏）土木勞務者の食糧と能率の關係に就いて

○土木雜誌 水力發電特輯第一九卷六、七號

○鐵道軌道統制會報 六、七月號

○法律時報 第一五卷七號

○科學技術動員（第二卷七號）

○土木試驗所報告（第七一號）

○わだち（第六卷四、五、六合併號、國民の職途協力號）

○大大阪（第一九卷八號）

○東大陸（八月號）

（岩井良太郎氏）現階段の最低生活論

○都市問題（第三七卷二號）

○發送電（第三卷七號）

○港灣（第二一卷八號）

本誌八月號重要記事

一、アラスカの歴史産業交通の概況（下）

一、曲げモーメントを受ける單鐵筋T形梁の應力度

算定係數表（上）

一、道路改良會首腦部と道路問題の推移

一、ジャワの道路及自動車

一、石川縣下志雄町の道路愛護會作業及展覽會

一、時局 日誌（六九）

若葉吟社詠草 (春波、花菜の卷)

朝晴の漁村明るし春の波	藝仙
春の波湖畔の宿に灯ともりぬ	東邊僕
笹舟を岸に寄せけり春の波	同
むら雲の靜寂さやし春小波	靜如
春の波岩高々と岸に立つ	同
春の波燈臺靜かに夕映へる	淺茅
菜の花の一本咲きて地藏堂	同
海見へて試作の畑の花菜哉	蔭邨
夕陽さす雲の明るさ花菜畑	同
肩杖の傷兵試歩す花菜道	同
○	
漂へる紅緒草履や春の波	野狐禪
春の波の陽に遊ぶなり船障子	同
河童出て踊れ菜の花月夜なる	同
菜の花の雨寒きかな早泊り	同
花菜道疲れし連を待ち侘びて	同

若葉吟社詠草 (尺蠖、白靴の卷)

街角に白靴の人友を待つ	翠山
靴白うお伊勢詣での旅館かな	澤庵
白靴や心身輕き梅雨のあけ	靜如
尺蠖の小さき歩み日のながし	東邊僕
今日を終へて鋪道にながる白き靴	同
尺蠖や大樹の梢天を截る	同
白靴を干して新居の晴れてけり	蔭邨
夜目に浮く眞白き靴や父歸る	同
尺蠖や桑の若技陽に伸びて	同
背戸晴れて尺蠖這へり大樑	同
○	
木瓜一と叢ら尺蠖蝶と皆化して	野狐禪
尺蠖や茂り分け來し菅の笠	同
白靴の踏まれし痕のいたましく	同
白靴や抱えて輕き紙靴	同
白靴の濶歩晴れたり無帽主義	同